

親子のやる気の親の気づき

〇〇16



中3男子の入塾面談で、「長男だからどうしても八高に入れてほしいのですが」とお母さまから強い要望がありました。本人も第1志望は「八高です」とはっきり言いました。しかし、何日たっても勉強のペースが上がりにません。本人と腹を割

銭湯

って話してみたら、本音は「八西で野球をやりたい」というものでした。

翌日、お母さまに会う機会ができたので、「成績が思ったより伸びませんが、実は本人の志望は…」と彼の胸の内を伝えました。すると、そんなはずはないと強く否定するのです。私は懸命に子どもの代弁をしました。どれくらい話したでしょうか、母親は「塾長は

社会の中で自立目指せ

何も知らないんです。あの子は今でも私の布団に入ってきて眠るんですから」とおっしゃいました。一瞬、私は自分の耳を疑いました。「そうですか…であれば」と引き下がり

ました。また、ある中1男子のお母さまからは「父親が単身赴任になり家には2人しかいなくて、私が宿題を見てあげていますが、中学に上がった難しくて」と。それに対して私が

「中学生になったら一人でできるようにしたいです」と話したら、「中学生になったら、このごろはお風呂の中でも会話が減っ

た。私も「お母さんとお風呂ですか…」と言うのが精いっぱいでした。子どもは、生まれて小学校に入るまでは家庭で家族と育ち、小学校に進んでからは先生と友達とかかわりながら育ちます。私は、添い寝や家族で風呂に入ることが、子どもにとって、親の慈しみや家族の愛情を感じる大切な機会だと考えます。しかし、中3男子の母親との添い寝や、中1男子の母親との家族風呂には違和感を覚え

ます。核家族、マイホーム、携帯電話、マイカーでの子どもの送迎と生活様式が、安全、安心、便利になり、自宅

に風呂があり子ども部屋があって当たり前豊かな時代になりました。われわれ親の世代が子どものころは、風呂は銭湯が当たり前で、確か小学校高学年ともなれば、男子は母親と女湯には入れなかつたと思います。子どもは心身の成長とともに、社会の中でおのずと親離れをしていったのだと思います。ゆとり教育世代はこの豊かな生活の中で、親との常時接続状態を断ち切って自立を目指すしなければなりません。多感な時期こそ、多くの人とかかわりの中で育ってほしいものです。(畑山篤志学塾長)

親子の常時接続に違和感



by yoriko

教育

ニュースなぜなに

す。裁判を始めることを「起訴」といい、起訴するのは検察官の役目です。しかし、検察官が起訴しない場合、「おかし」と考える被害者らは審査の申し立てができます。



検察審査会の議決を受ける記者の質問に答える民の小沢一郎幹事長(中) 4月、東京・永田町本部

…では、鳩山由紀夫についても審査の申述がありましたか、

保診

「菌磨き実習」で虫菌激減